

戦争法廃止、沖縄連帯、労働法改悪阻止、脱原発社会の実現、
権利を譲らず、差別を許さない！・安倍政権打倒へ
貧困・差別・格差を許さない総がかり運動を作ろう！
= 第28回定期全国大会を開催 =

9月22日・23日の両日、全労協は第28回定期全国大会を開催した。2015年度の活動を総括し、16年度の活動方針案を議論し満場一致で闘う方針を採択、新役員体勢を選出して閉幕した。

唐澤副議長の司会で開会し、議長団に東京清掃労組・西村好勝、国労・榎田秀行の両代議員を選出し議事を進行した。まず、資格審査委員から大会成立要件である代議員の2/3を超える出席が確認されているとの報告を受け、議長団から大会成立が宣言された。

まず最初に金澤議長から常任幹事会を代表して挨拶が行われた。金澤議長は「夏の参議院選挙で自民・公明など改憲勢力が3分の2議席を獲得することを許した。アベノミクスは完全に失敗しており、貧困と格差が更に進んでいるなか、労働者の生活を守り、戦争させないためにも幅広い共同戦線が必要であること、全労協はその先頭に立つ必要がある、いま、そのための議論をしっかりと行って欲しい」と挨拶が行われた。

来賓として出席された新社会党副書記長の宮川敏一氏、中小労組政策ネットの平賀健一郎氏から挨拶を頂いた。また大会には元議長・山崎道人、前議長・藤崎良三の両顧問に出席いただき、代表して藤崎顧問から激励の挨拶が行われた。この日、9月22日(木)は代々木公園で「さようなら原発、さようなら戦争大集会」が開催されており、社民党並びに平和フォーラムからの挨拶は二日目の朝となった。寄せられたメッセージは大会書記長から披露された。(別掲)

選挙管理委員会を役員選考委員会に切り替えて、議案討論に入った。まず中岡事務局長から15年度の経過報告と16年度活動方針とその補充議案が提起され、久保事務局次長から決算報告並びに16年度予算案の提起を受けて質疑討論に入った。

22名が発言し争議の勝利、最賃闘争の強化を提言

第一日目の報告を中心とした討論には14人が参加した。まず、東部全労協・代

議員として東京労組全労からパワハラと闘うフジグループ争議、とFAユニテッド航空争議について当該組合員と共に報告と支援、並びに署名の取り組みへの協力が求められた。

続いて全国一般全国協代議員東京労組野中代議員からは争議と組織化の状況について方向が行われた。特にフジビ闘争については当該組合員の小金井さんから、親会社である富士美術印刷による組合員3人に対して起こされている損害賠償裁判について東京高裁の不当判決が出され、現在労働弁護団の協力を得て最高裁闘争が行われていること、並びに、闘いの更なる強化を進めるための支援要請がおこなわれた。

次に全国一般全国協東京東部労組の矢部代議員から個人タクシー協同組合の女性事務員12名がパワハラ、セクハラを止めさせるために組合を結成し、ストライキを行って理事者に職場の改善を迫る闘いが報告され、また東部労組メトロコマース支部の後呂代議員から非正規労働者差別を許さないとして闘ってきた労契法20条裁判、並びにストライキの取り組み状況が報告された。この20条裁判を勝利させると共に、非正規労働者の処遇改善を実現させ、これまでの闘いに頂いた支援には支援で返したいと決意が述べられた。

ユニオンネット埼玉の渋谷代議員からは塾講師の雇い止め、残業未払いの裁判闘争への協力が行われた。

全統一労組佐々木代議員からは井上眼科病院による不当解雇撤回闘争の勝利報告と支援に対する御礼が述べられた。闘いの中では裁判闘争にも完全勝利してきたことが報告された。

郵政ユニオンからは日巻代議員が発言に立ち、春闘で実施した全国拠点ストへの支援に感謝の意が述べられ、東京と大阪地裁で進めている労契法20条裁判の進捗状況並びに報告会への参加要請が行われ、非正規労働者・期間契約社員の処遇改善に向けて闘いを進めていくとの決意が述べられた。また、メーデーについて代々木中央メーデーと日比谷メーデー開催に際して闘うエールの交換が実現したことをうけ、更に共同の取り組みを求める意見が表明された。

大阪教育合同の大椿代議員からはこの3月、アメリカ・レーバーノーツ大会に参加した報告がおこなわれ、アメリカ非正規労働者の闘いやシカゴ教育労働者のストライキに参加し大いに励まされたこと、日米労働者の連携交流、国際連帯活動をもっと進めて欲しいとの要望が出された。

全国一般全国協・嶋田代議員からは最賃闘争の取り組みについて発言が行われた。まず、今年度の最賃が25円引き上げられたことに触れ、まだまだ十分ではないが、この引き上げによって賃金の引き上げが可能となる労働者は300～500万人にもなり、最賃引き上げを求める闘いは労働組合に参加できていない労働者

<二面に続く>

28期（2016年度）役員名簿（全労協第28回大会）

役職	氏名	選出労組
議長	金澤 壽	東京清掃労働組合
副議長	唐澤 武臣	国鉄労働組合
副議長	和田隆宏	東京都労働組合連合会
事務局長	中岡基明	全国一般全国協議会
事務局次長	久保 聡	全水道東京水道労働組合
常任幹事	井村好博	国鉄労働組合
常任幹事	国谷武志	全水道東京水道労働組合
常任幹事	中村知明	郵政産業労働者ユニオン
常任幹事	齋藤正和	全統一労働組合
常任幹事	中里保夫	東京清掃労働組合
常任幹事	渡辺啓二	全国一般全国協議会
常任幹事	柚木康子	石油労組連絡会
常任幹事	佐藤 洋	全国一般全国協議会
常任幹事	菅野 存	全国一般全国協議会
常任幹事	中原 純子	東京全労協
常任幹事	福田徹矢	大阪全労協
常任幹事	稲村 守	総評京都地方評議会
常任幹事	池上文夫	広島県労協
常任幹事	鈴木英夫	静岡県共闘
常任幹事	川端勇次	神奈川県共闘
常任幹事	大内忠雄	宮城全労協
会計監査	藤村 妙子	大田区職員労働組合
会計監査	渡辺 隆	全国一般全国協議会

にとって非常に重要であること、10月から引き上げられる最賃を未組織の労働者にもしっかりと宣伝し、労働者の生活底上げに尽くそうと発言があった。

全統一労働組合・鳥井代議員からは質問意見として活動方針に提起された貧困と格差をなくす総がかり行動の取り組みについて外国人労働者・移住労働者の視点が大事ではないか、今後、少子化の中で技能実習生や移住労働者の受け入れが必然的に進む中、排外主義も拡大している。今後移住労働者は更に拡大していく

方向にある。貧困・差別はこうした外国人労働者・移住労働者の視点からもしっかり取り組んでいく必要があると意見表明が行われた。

第一日目の最後に神奈川県共闘の宮沢代議員から神奈川で闘われている争議の青葉台郵便局の雇い止め撤回闘争は完全勝利し、当該組合員は職場復帰が実現している報告と、現在、闘われているカリタス学園争議、横浜学校事務職員Sさんの免職裁判闘争への支援取り組み要請が行われ、休会に入った。

その後懇親会には96名が参加し、大いに盛り上がった2時間となった。それぞれ各労組、地域から参加者は壇上に上がり、自己紹介と決意を披露した。

安倍政権打倒へ新役員体勢で出発 <第二日>

大会二日目は早朝より、闘いの現場を交流する企画としてDVDを上映して討論に参加した。最初のDVDは全国一般東部労組市進支部の解雇から職場復帰までの闘いの軌跡である。その後にはアスベスト被害と闘い、救済と責任追及を求めて闘ってきた東京労組日本エタニットパイプ分会が映し出された。

その後、平和フォーラムの藤本泰成共同代表、社民党・福島みずほ副党首から激励の挨拶を受け、二日目の討論に移った。

まず練馬全労協の三澤代議員から練馬の地域共闘が最賃闘争や戦争法廃止の闘いなど、全労連系や連合の一部労組と共に市民も参加して闘われ成果を上げていること、総がかり的な運動が求められていると意見が表明された。

京都総評の藤原さんは京都ユニオンの307日にわたる職場占拠ストライキによって逃亡していた社長一族を遂に交渉にひきづりだして勝利和解を勝ち取ったこと、そして裁判でも職場占拠の正当性・合法性を認めさせてきたとの報告がなされ、会場からは大きな拍手が送られた。

大椿代議員（大阪教育合同）からは安倍政権の戦争政策に教育労働者が駆り出されようとしていること、教育の国家統制と闘かうことの重要性が指摘された。

神奈川の宮沢代議員は全労協青年委員会の立場から、青年運動飛躍に向けた決意と各労組の協力要請が行われた。

静岡県共闘・岡本代議員からはブラジル人労働者に向けられたマタハラとの闘い、外国人労働者によるグローバルユニオン結成の闘いが報告された。

全統一・佐々木代議員からは移住労働者が直面しているの最近の動向と具体的相談例が紹介され、通訳問題など困難性があるがしっかりと労働者として連帯を強化していこうと呼びかけが行われた。

北区ユニオン・千葉代議員からはJR東日本子会社の争議報告、ならびにコンビニの店舗統廃合に係わる雇い止めなどに対応する体勢作りが指摘された。

最後に東京全労協から寺嶋代議員から沖縄と連帯する闘い、本土や現地での闘いを強化しようとする提案が行われた。

< 3面に続く >

討論を集約して中岡事務局長は以下のまとめを行った。

① 全労協らしさである「権利は譲らない・差別を許さない」を基調に、争議をしっかりと位置づけ、全力で支援を拡げ勝利に結びつけよう。闘いは裁判官をも動かす力を発揮することが必要。

② 安倍政権の反動攻勢、戦争する国作り政策は排外主義や弱者切り捨ての風潮を生んでいる。私たちの闘いは日本人労働者・外国人労働者そして市民が一つになって闘うことが求められている

③ 貧困と格差が進み、貧困更に幾層にも重なり、絶対的貧困も拡大している。そこは高齢者、外国人がターゲットになろうとしている。

④ 最賃の引き上げによって影響を受ける労働者が拡大している。最賃闘争は中小零細企業労働者、非正規労働者の生活底上げに欠かせない闘いとなっている。最賃闘争を重視しよう。キャンペーン、キャラバンに全国で取り組み成功させよう。

⑤ これらの闘いは各組織が個々に闘っている。現状を打破し、安倍政権を打倒するためには労働者・労働組合の垣根を越え、市民運動とも共同した大きな社会運動を創り出す必要がある。貧困・差別を撲滅する総がかりの運動が求められている。全労協はその役割を積極的に担っていこう。

事務局長のまとめを受けて採決が行われ、満場一致で活動方針が決定した。

続いて会計報告、予算案について久保事務局次長から財政小委員会報告が行われた。財政状況は厳しいものがあるが、今後の財政健全化にむけた検討の必要性について指摘を受け、採決の結果全員一致賛成で採択した。

新役員体制については役員選考委員和田委員長から別掲（上表）が示され、常任幹事の田宮高紀氏、倉林浩氏の退任と新たに常任幹事として齋藤正和、中村知明両氏、また会計監査は中村賢氏の退任にともなう後任に渡辺隆氏が推薦され、これも満場一致で採択された。

退任する倉林さんから挨拶が行われ、新任の中村さんが決意を表明し、新役員を代表して金澤議長が今後一年の闘いに向けた挨拶を行い新体制は出発した。

第28回大会を締めくくるにあたって①全ての原発廃炉！脱原発者会の実現に向けて闘う決議 ②戦争法廃止！平和憲法の改悪を許さず、沖縄と連帯し、護憲・平和運動を戦う決議、 ③安倍政権の『働き方改革』の狙いを見極め、労働者がいきいき働き、人らしく生きることのできる職場・社会を実現する決議を採択し、最後に大会宣言が満場一致で確認された。

全ての議事が終了する中、議長団から大会スローガンが読み上げられ大きな拍手で確認が行われた。

最後に和田副議長が閉会の挨拶を述べ、金澤議長の音頭で団結ガンバロウを参加者全員で三唱して終了した。

<お寄せいただいたメッセージ>

全日本建設運輸連帯労働組合 全日本港湾労働組合 ネットワークユニオン東京
日本新聞労働組合連合 日本学生支援機構労働組合 日本労働弁護団
移住労働者と連帯する全国ネットワーク 在日韓国民主統一連合
フォーラム平和・人権・環境 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック
共同センター・労働情報 (株) 広報ブレイス
世田谷区長・保坂展人 社会民主党衆議院議員・吉川はじめ
民進党衆議院議員・辻元清美 参議院議員・糸数慶子 参議院議員・伊波洋一
新社会党・松枝佳宏 上越市議会議員・牧田正樹 (以上)



9月23日 全労協第28回定期全国大会